

日本文理 甲子園へ

2年ぶり11回目

新潟産大付 初制覇ならず



2年ぶり11回目の夏の甲子園出場を決め、喜ぶ日本文理
ナイン。27日正午すぎ、新潟市中央区のハードオフ・エ
コスタジアム

▽決勝(ハードオフ・エコスタジアム)

日本文理	4	0	1	0	0	2	0	0	0	7
新潟産大付	1	0	0	0	0	0	0	2	0	3

第103回全国高校野球選手権新潟大会は27日、新潟市中央区のハードオフ・エコスタジアムで決勝を行い、日本文理が新潟産大付に7-3で勝利し、2年ぶり11回目の夏の甲子園出場を決めた。

日本文理は初回、相手守備の乱れを突いて無死満塁とし、4番の渡邊暁仁選手が本塁打を打ち4点を先制。三回は高橋瑛一朗選手、六回は田中晴也投手の適時打でそれぞれ追加点を挙げ、突き放した。先発した田中投手は尻上がりに調子を上げ、3失点で完投した。

初優勝を狙った新潟産大付は、先発西村駿杜投手が序盤で大量リードを許し、六回も2点を許した。打線は初回到五十嵐魁選手の適時打で1点を返した。八回には主砲鈴木健太郎選手の2ランで追い上げたが、反撃もそこまでだった。

日本文理の渡邊主将は「昨秋、今春と悔しい思いをしてきて、夏に懸けてきた。本当にうれしい」と喜んだ。

新型コロナウイルスの感染拡大で甲子園大会が中止となった昨年は、新潟大会も中止。2年ぶりの開催となった。

全国高校野球選手権は8月9日、兵庫県甲子園球場で開幕する。組み合わせ抽選は3日。